

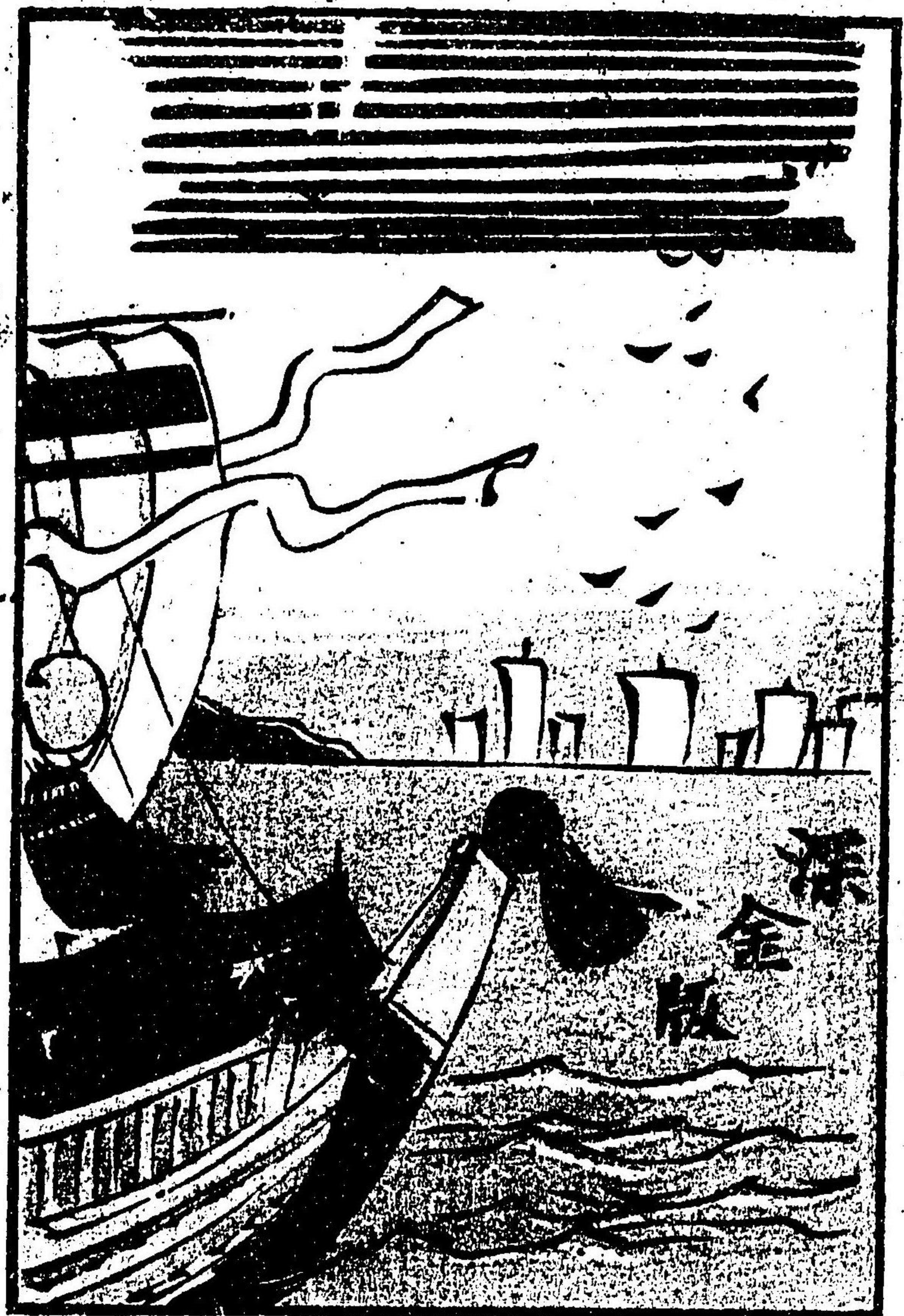
特59

943

會本源平盛衰記全



國政画



深
金
版

同治十九年一月二十一日内務省贈付



常
盤

左馬頭義朝若若牛
若若子若朝若若
常盤三子共平家備
誅せしむ清盛常盤
後今若頼朝若若頼
若若義経と稱す

清
盛

原下遠景也

義經主從
吉野二落圖



義經主從
吉野二落圖



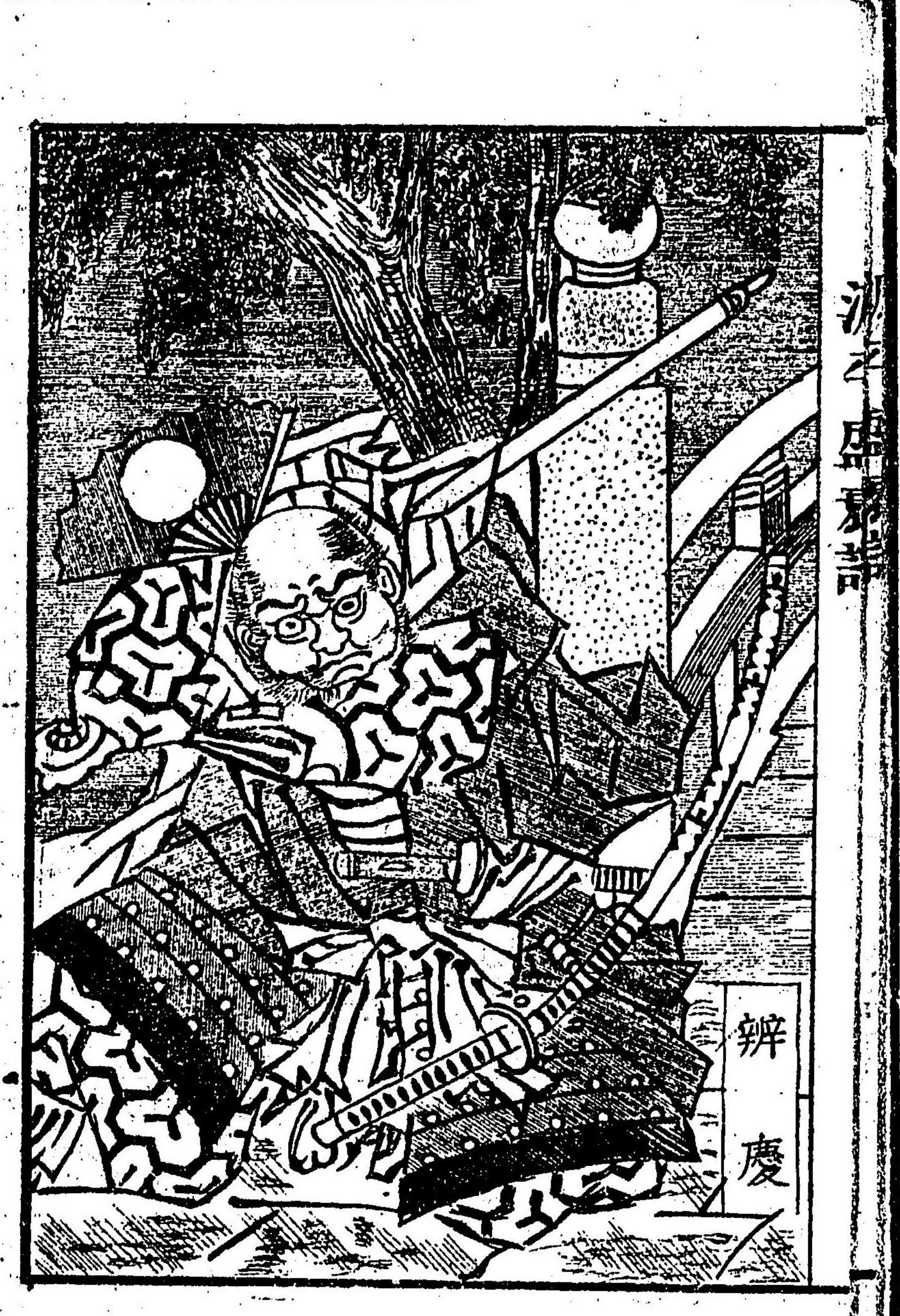
原下盛衰已



牛若丸の奥書
 牛若丸の家をいふ
 と定め鞍馬の奥書
 の社名夜多指の借
 正谷まで木石を相
 手飲道と自得
 其妙手と究む

源平盛衰記







源頼朝

頼朝石橋山の軍敗
 主従七騎まで落ち
 驚の岩屋下り七八人
 入寺臥木の洞入り暫く
 爰息を續く



源平盛衰記



源義経

義経六鷲の尾を先陣と
して一の谷後には鴨越の
攻入く城へ放火す折
節西風烈しく猛
火盛ふ起り忽ち
落城す



八島の合戦乱軍より
救経ハ義経の船より
衆當りて取押へんと
義経味方の船の三丈計
り除きかゝる一飛來り
危難を避く



義経



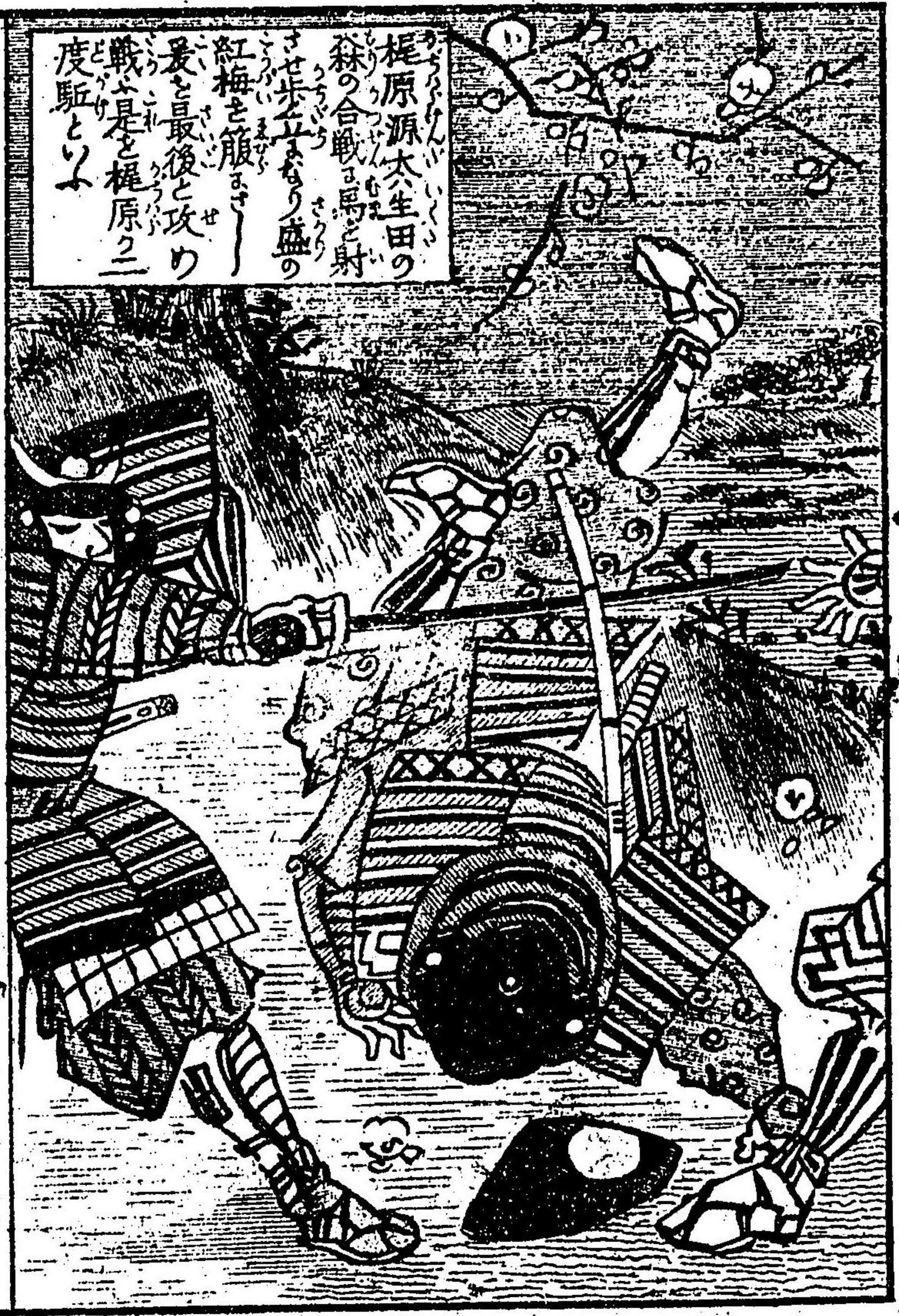


佐々木高綱

梶原佐々木宇治
川の先陣を争小佐々
木提原ま向ひ駿の馬
の腹帯緩むと云木提
原を人ど腹帯を引
結其間高綱先陣す



梶原源太生田の
森の合戦馬を射
させ立上り盛の
紅梅を服まじ
最を最後と攻め
戦ふ是を梶原三
度駈とよ



梶原景季





巴御前



義仲の妻巴八女
あつと武勇人
越り四の宮河
原内田家吉を
取押へ鞍の前輪
よ攻め引仰け
首を取る

頼朝義経不和とあり
土佐坊昌俊を以て義
経の堀川の宿所を討
し昌俊敗北し落し
鞍馬を捕らふ六條
河原を首を刎らる



明治十八年十二月三日御届
編輯者出版人
状
金之助
十
五



